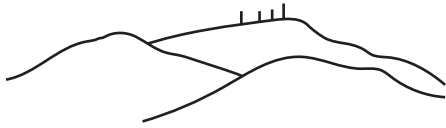


Youth Manna

2022/8/8 - /8/14



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2022/8/8(月)

ヨハネ 10:31-42

ユダヤ人とイエスの議論の攻防が続く。ユダヤ人達は、「あなたは人間でありながら、自分を神とする、その冒涇の罪のゆえに(33)」イエスを石打ちにしようとした(31)。しかし、イエスは①冒涇とは主の御名を冒涇すること(レビ記 24:16)であること ②神の言葉を受けた人々を神々と呼ぶことは旧約聖書にも書いており違反ではない(詩篇 82:5-6)ことを彼らに伝えた。彼らに馴染みのある旧約聖書に則り説明したのである。

誰かに何かを伝えても伝わらない時、私たちはついイライラするけど、「伝え方」にもコツがあるのではないだろうか？イエス様のように、相手と同じ土俵に立って、相手にとって最も馴染みある方法で伝えることも大切だね。友達、先輩後輩、先生、家族… 今日、誰かに何かを伝える時、どう伝えれば伝わるかを考えてから話してみよう！

2022/8/9(火)

ヨハネ 11:1-16

マリアとマルタの兄弟ラザロが病気だという知らせがイエス様に届いたよ。イエス様はこの病気が「神の栄光」のためのものだと言われたけど、それはどういうことだろうか？

それは、これから起こる 11 章の出来事で、ユダヤ人はイエス様を明確に殺そうとし始め、イエス様が十字架につけられる「時」が決定的になるからなんだ。イエス様の十字架によって、救い主としてのイエス様の栄光が最も表されるからだね。弟子たちはユダヤに行くのは危険だと反対したけど、まだ十字架の時が来ていない今はつまりくことはないと言われたよ。

君の人生にも神様のご計画があって、神様が用意されている時がある。神様に聞いて歩むことが出来たら君の歩み方はどう変わるか想像してみよう！

2022/8/10(水)

ヨハネ 11:17-29

イエスが愛しておられたラザロが死んで、四日も経ってからイエスが到着した。家族にとっては、どうしてもっと早く来なかったのかと嘆かずにはいられない状況であった。マルタはこれまでイエスの多くのわざを見聞きしてきた。ラザロが死ぬ前であれば、イエスなら癒せたに違いないと思っていた。しかし、死については取り返しがつかないと思っていたのである。

イエスはマルタに、「あなたの兄弟はよみがえります」と言われた。マルタは終わりの日の約束だと受け止めたが、イエスは「私はよみがえりです。いのちです。私を信じるものは死んでも生きるのです。」と言われた。

「罪の報酬は死」であるが、神を愛して生きる者に罪の死の恐怖はない。イエスを信じる者に約束されている勝利について考えてみよう！

2022/8/11(木)

ヨハネ 11:30-44

ラザロの死に対してマリア、マルタ、人々は嘆いていた。私たちは唯一の救いである永遠のいのちの知っているが、それでもこの世の悲しみ、苦しみの中にあることはある。

イエス様の憤りについて、みことばの光では「地上の別れの悲しみや同情を表したのではなく、すべての人間に死をもたらす罪という存在に、人がこれほどまでも支配されていることへの悲しみであろう。」とあり、別々のを見ると、「彼らを怒っているのではなく、人々に悲しみをもたらす死に対して、憤られているのです。」とある。

これは人に対する失望か、罪に対する失望かの違う見解である。私自身は後者のように受け取ったが、改めて聖書をよく吟味して読む必要があると感じた。永遠のいのちを受け取り続ける決断をしよう！！

2022/8/12(金)

ヨハネ 11:45-57

ラザロの復活によってイエス様を信じる者が増えていったことに焦った(45)祭司長、パリサイ人達は最高法院を召集しました。(47)祭司長達はユダヤ国全体の心配ではなく、自分達の自由と特権がなくなることの恐れしました。大祭司カヤパは最高責任者として国民全体が減じるより一人の人が犠牲になる方が良いと言いました。(50)何も罪を犯していない人が犠牲になることは本来は良くないことですが、結果的にカヤパは神が全人類を救う、救いについて預言することに用いられました。

神様が信じていないカヤパにも働かれたように、あなたの周りの信じていない人にも働かれます。今日誰に何を話せば良いか教えてくださいますと祈って出ていこう！！

2021/8/13(土)

ヨハネ 12:1-11

マリアが、一年間働いた分の値段がする油を使って、イエス様の足に塗って髪の毛でぬぐった。

ユダは、みんなのお金を使い込んでいてそれを誤魔化すためにも、その油分のお金が欲しくて彼女を非難したね。そして、パッと見ただけでも、多くの人にとっては『もったいない』『他にもっといい使い方がある』と思われるであろう行動だった。

でもイエス様はこれから十字架に向かう自分に対しての愛として、彼女の行動を認めていたんだ。全ての人のために自分のいのちを捨ててくださるイエス様に対してささげるとき、マリアの行動は決して高すぎるもったいないものじゃなかったね。

私たちも純粋に神様を愛して、ささげることをしていけるよう祈ろう！

2021/8/14(日)

ヨハネ 12:12-19

ローマ帝国の支配下にあったユダヤ人は長い間、ローマを打ち倒してくれる救世主を待ち望んでいました。そんな時に死んだラザロをよみがえらせたイエス様の力を耳にした彼らは、イエス様が救世主であることに期待し、イエス様を熱狂的に歓迎しました。「ホサナ」とは「どうか救ってください」という意味です。彼らには彼らが描いた、神様のものではない「救いの未来図」がありました。

しかし、イエス様は「ろばの子を見つけて、それに乗られた」(14)。預言者ゼカリヤが語っていたとおりの柔和な王の姿でした。神様の義がもたらす勝利、神様の平和とは、罪による滅びからの救いです。聖であり義なる神様が、ご自身の御子を惨めな死刑囚とする未来図でした。

ろばに乗ったイエス様は愛によって自らが十字架で死ぬことを選ばれました。私たちは自分勝手な未来図を手放し、「自分の十字架を負って」歩んでいるでしょうか。イエス様の十字架自分のためであったことを思い巡らそう。